

「ふだんの授業展覧会」 美術科 学習指導案

授業者 大阪教育大学附属天王寺中学校 宣 昌大

日 時：令和7年2月8日（土）

場 所：大阪教育大学附属天王寺中学校 美術教室（南館1階）

対 象：第1学年（各学級36名）

題材名：「洞窟壁画をみる、考える～ラスコーの洞窟壁画を通して、先史時代の美術表現にふれる～」

（日本文教出版『美術1』pp.28-29「美のタイムトラベル」）（B鑑賞(1)イ(イ) [共通事項] (1)アイ）

1. 本題材について

①授業計画

次	時間	学習形態	内 容
1	1	個人	1. 洞窟内部の映像視聴、5W1Hをもとに、ラスコーの洞窟壁画について個人で調べる。
	1 【本時】	班 全体	2. 前時で調べ考えたことを班内→学級内（ワールドカフェ形式）で交流、情報収集をし、考えを深める。 洞窟内部の映像を改めて視聴し、「なぜこのように描かれたのか」を考える。
	1	全 班 個人	3. 洞窟内部の映像視聴をもとに、「なぜこのように描かれたのか」について、全体共有した画像をもとに班で交流し、考察をもとに自説をまとめること。
	課外	全体	4. 自説をまとめた課題「鑑賞シート」提出後、HR教室廊下壁面へ掲示することで、他者の説を知る機会を設ける。

②題材設定の理由

フランスのラスコーやスペインのアルタミラをはじめとした洞窟壁画の鑑賞において、「洞窟に描かれた絵」という視点から「なぜ描かれたのか」と問う鑑賞活動は教科書で紹介されており、生徒は、狩猟方法説、天体説、呪術説など調べ学習によって知識を深めることができる。そこで本題材では、「絵が描かれた洞窟」という視点から全体をイメージで捉え、「なぜこのように描かれたのか」について考えることで、未だ明らかにされていない問い合わせについて思考する態度を育成することを目指す。

③題材の目標

ラスコーの洞窟壁画の鑑賞を通して、「なぜこのように描かれたのか」という問い合わせについて自説を考え深めることで、未だ答えのない問い合わせに対して思考する力を育む。

（1）【知識及び技能】

- ・ラスコーの洞窟壁画の歴史的背景や表現技法の特徴などを基に、全体のイメージで捉えることを理解できるようとする。（[共通事項] (1) アイ）

（2）【思考力、判断力、表現力等】

- ・先史時代の文化遺産であるラスコーをはじめとした洞窟壁画について、そのよさや美しさなどを感じ取り、見方や感じ方を広げたりすることができるようとする。（B鑑賞 (1) イ(イ)）

（3）【学びに向かう力、人間性等】

- ・美術の創作活動の喜びを味わい洞窟壁画の描かれた社会的背景などについて、根拠を持って楽しく鑑賞の学習活動に取り組む態度を養う。

④準備物

（教員）授業スライド、「ラスコー洞窟内マップ」、データ（「洞窟内映像」「調査メモ用紙」、「鑑賞シート」）

（生徒）筆記用具、タブレットPC

2. 本時の学習について

①評価規準と指導の手立て

評価規準	十分満足と判断できる状況	努力を要する状況への手立て
(1) 資料収集や分析をもとに、ラスコーの洞窟壁画の歴史的背景や表現技法などの特徴を説明できている。	自身の調査内容だけでなく、班や学級内で得た情報も加え、より緻密な調査ができている。	表層的な情報について、「その年代はどのような環境であったか」「描かれた動物の種類と割合は」など、より具体的に調べることを促す。
(3) 美術の創作活動の喜びを味わい、洞窟壁画の描かれた社会的背景などについて根拠を持って楽しく鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	洞窟壁画の描かれた社会的背景などについて、班や学級内から得た情報を自説に取り込めるか精査しようとしている。	具体的な体験談を基に発想を促すなど興味が持てるよう共に考え、鑑賞の活動を支援する。

②本時の指導内容

時間	・学習内容	指導上の留意点
導入 7分	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの振り返りをする ・題材の目標を確認する。 ・本時の流れを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動の目標を意識するよう促す。 ・班、学級での共有によって自説を強固にするという目的を確認する。
展開① 20分	<ul style="list-style-type: none"> ●調べたこと、考えたことを共有。 ・自分が調べた、考えた内容を班のメンバーと共有する。(5分間) ・2回のワールドカフェで調べた内容を共有する。(5分間×2回) ・ワールドカフェで得た内容を班のメンバーと共有する。(5分間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・各共有の場面で、より詳しく具体的に調べた内容を共有するよう促す。
展開② 15分	<ul style="list-style-type: none"> ●洞窟壁画をなぜ描いたかを問う ・“なぜ描いた”について、洞窟の“どこ”に“何を”描いているのかを考える。(5分間) ・洞窟内映像で気になったところをスクリーンショットし、ロイロノートに提出する。(10分間) 	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ描いたのか、絵を見る視点から、絵が描かれた場所、空間をみる視点へと促す。 ・次回、スクリーンショットした内容について班で考えることを伝える。
まとめ 8分	<ul style="list-style-type: none"> ・「調査メモ用紙」データをロイロノートへ提出する。 ・ラスコー洞窟内マップを班ごとに回収。 ・次回に向けてのまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・班内で片付けが終わっていない生徒を手伝うよう促す。 ・本時の内容について隨時考えておくことを促す。

③参考文献

- ・五十嵐ジャンヌ, 2021, 『なんで洞窟に壁画を描いたの? 美術のはじまりを探る旅』, 新泉社
- ・ジェネビーブ・ポン・ペツツィンガー, 櫻井祐子訳, 2016, 『最古の文字なのか? 氷河期の洞窟に残された32の記号の謎を解く』, 文藝春秋
- ・布施英利, 2018, 『洞窟壁画を旅して ヒトの絵画の四万年』, 論創社
- ・小川勝, 2022, 「ラスコー洞窟壁画の芸術性: 綿密な記述による」, 『鳴門教育大学研究紀要』37, pp. 381-391